

キャリア支援部

<p>現状及びアンケートの結果分析等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人一人の状況に応じて、担任、部主事、他分掌等と連携しキャリア実習や研修会等を行っており、自己理解を深めたり、進路選択につなげたりしている。</li> <li>・保護者向けに「進路のしおり」の配付及び当校のキャリア教育について説明をしているが、理解や活用において十分とは言えない状況である。各部段階におけるキャリア教育とは何をすべきなのか分かりやすい情報提供が必要である。</li> <li>・各部毎のキャリア通信の発行や保護者の関心の高い情報を提供することを意識し、保護者アンケートの評価も少しずつ上がってきている。</li> <li>・職員に向けて施設見学や研究研修部と連携し研修会を実施している。</li> <li>・本人、保護者のニーズを踏まえ、各部段階における課題に応じて居住地域実習を実施している。</li> <li>・進路指導主事等が可能な限り個別懇談に入り、保護者のニーズを汲み取り、必要な情報を発信している。</li> <li>・二期制に伴い懇談の時期等に合わせた「個別の教育支援計画」の内容確認や提案について職員への周知徹底が十分とはいえない状況である。</li> <li>・各部の児童生徒の支援に関わり各部毎で外部の関係機関と連携して支援会議を開き、情報共有や共通理解を図りながら児童生徒の支援を行っている。但し校内において学校全体で組織的に対応しなければいけないケースもある。</li> </ul>
<p>今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1)児童生徒の発達の段階に応じたキャリア教育を推進する。</li> <li>(2)個別の教育支援計画の効果的な運用を行う。</li> <li>(3)職員間で情報を共有しながら、家庭、医療、福祉等の関係機関とも連携して校内・進路支援を行う。</li> </ol>
<p>重点目標を達成するための校内組織体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任、部主事、他分掌と連携しキャリア教育の視点から行事等の教育活動を推進する。</li> <li>・二期制において、個別の教育支援計画の内容確認のスケジュールを引き続き教務部と連携し調整する。</li> <li>・支援が必要な児童生徒に対して、他の分掌等と連携し校内ケース会議を行い校内の支援体制を作る。</li> <li>・担任や各部主事と相談しながら進路指導主事や部の校内支援担当者を中心に、外部機関との連携を積極的に図る。</li> </ul>
<p>目標の達成に必要な具体的な取組</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1)児童生徒の発達の段階に応じたキャリア教育を推進する。             <ol style="list-style-type: none"> <li>①高等部においては、進路を見据えて外部模試を受験したりキャリア実習等を系統的、段階的に行ったりして進路決定につなげる。また、小、中学部においては、個々の課題に応じた居住地域実習等を実施する。</li> <li>②進路のしおりの見直しを含め、内容や活用事例紹介等を行い、キャリア教育の理解啓発と活用を促していく。</li> <li>③キャリア通信等を通して、保護者にキャリア教育についての情報発信する機会をもつ。また教職員に対しても研修会を企画する。</li> </ol> </li> <li>(2)個別の教育支援計画の効果的な運用を行う。             <ol style="list-style-type: none"> <li>①校内支援担当者等が必要に応じて個別懇談に入り、保護者と直接話をする機会をもつことで保護者のニーズをくみ取り、必要とされる情報を発信する。</li> <li>②二期制に伴い個別の教育支援計画（P）に基づく支援（D）をし、懇談時に評価（C）し、改善（A）するPDCAサイクルの流れを作り、効果的な運用を図る。</li> </ol> </li> <li>(3)職員間で情報を共有しながら、家庭、医療、福祉等の関係機関とも連携して校内・進路支援を行う。             <ol style="list-style-type: none"> <li>①児童生徒の状況に応じて、担任や部主事、生活支援部、コア・ティーチャー等と連携しケース会議等を開いたりして、次の支援へとつなげる。</li> <li>②ハローワークや障がい者就業・生活支援センター、福祉事業所等の機関や相談支援専門員等と連携し、校内・進路支援を行う。</li> </ol> </li> </ol>

達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部におけるキャリア教育の課題に沿った実践ができたか。また保護者への理解啓発を図るための取組ができたか。</li> <li>・二期制のスケジュールの中で個別の教育支援計画のPDC Aサイクルの流れを作り、効果的な運用ができたか。</li> <li>・職員間で役割分担を明確にして支援にあたり、必要に応じて関係機関とも連携し、支援会議や移行支援会議を開催することで、個々の課題に応じた支援ができたか。</li> </ul>
取組状況・実践内容等	<p>(1)・高等部において卒業後の生活をイメージし、生徒一人一人の興味や適性、生活状況を踏まえ、担任、部主事、部の職員と連携し、進学に向けての指導や外部模試の実施、コロナ禍の中でのキャリア実習や企業内作業学習、校内作業実習、キャリア学習発表会を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学部では、仕事調べ、お仕事インタビュー、職場見学、職業につくための準備、作業製品販売会といった一連のキャリア学習を行った。</li> <li>・「進路のしおり」を見直したことで、キャリア通信5回のうち各部版を2回発行し、キャリア学習の視点で学習の様子を詳しく紹介した。色上質紙に印刷して、手にとってもらえるようにした。</li> </ul> <p>(2)・担当者が新一年生や必要な生徒の懇談に同席して説明する中で、保護者の願いやニーズを聞き、担任と連携して対応した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校再開が6月だったが、二期生のスケジュールの中で個別の教育支援計画PDC Aサイクルの流れを確認し、教育支援計画・移行支援計画の活用や支援の提案を行った。</li> </ul> <p>(3)・担任、管理職、校内支援係で常に情報を共有し、組織で支援にあたった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部の支援が必要な児童・生徒について、定期的な情報共有と支援会議を実施した。</li> </ul>
評価の視点	評価
(1)各部におけるキャリア教育の課題に沿った実践ができたか。また保護者への理解啓発を図るための取組ができたか。	A (B) C D
(2)二期制のスケジュールの中で個別の教育支援計画のPDC Aサイクルの流れを作り、効果的な運用ができたか。	(A) B C D
(3)職員間で役割分担を明確にして支援にあたり、必要に応じて関係機関とも連携し、支援会議や移行支援会議を開催することで、個々の課題に応じた支援ができたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<p>(1)〇コロナ禍の中で行事等見直すことも多かったが、それぞれの部・グループにおいて、可能な限り工夫を凝らしてキャリア学習を進めることができた。</p> <p>〇卒業後の進路にかかわる実習については、保護者と連絡をとりながら、確実に実施できた。</p> <p>▲保護者が校内に入ることがなくなり、担任以外の職員との接点も減り、情報を得にくくなったので、保護者への情報発信を引き続き工夫する。</p> <p>▲感染対策から、実現可能な行事や取組について、今年度中にいくつかの案を考案しておく。</p> <p>(2)〇キャリア支援部の職員が懇談に同席することで、保護者の悩みやニーズがわかり、個別の教育支援計画の内容を担当とともに考えることができた。</p> <p>〇個別の教育支援計画のPDC Aサイクルの流れは保護者にも浸透し、日々の実践や個別の指導計画と連動した内容にすることができた。</p> <p>(3)〇担任と連携し児童の家庭状況等に応じて、保護者と懇談したり担任・部主事とも情報共有したりして、組織として対応した。</p> <p>〇外部の支援が必要な児童生徒について、定期的な外部との情報共有と支援会議を実施することができた。</p> <p>▲一部の生徒支援については、早い段階で生活支援部と連携し、組織としてフォローする体制づくりが必要であった。</p> <p>▲コロナ禍の影響で、家庭においてこれまでになかった課題が出てくることがあるので、担任や部主事とも情報共有しながら支援する。</p>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信として、「キャリア通信」の回数や内容や紙面構成を工夫する。</li> <li>・「進路のしおり」の内容と類型別の活用事例の紹介を職員に行い、懇談時に「進路のしおり」を用いてキャリア教育の視点で話すことで、保護者の理解を促す。</li> <li>・個別の教育支援計画の利用例を示し、活用を促していく。</li> <li>・校内及び進路支援にあたり、担任と密に情報共有し相談しながら、各部内や分掌間等のかかわる教員間で役割分担をして連携しながら支援にあたるようにしていく。</li> </ul>

病弱教育支援センター

<p>現状及びアンケートの結果分析等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校及び高等学校、特別支援学校や医療・福祉等の関係機関からの電話相談や訪問支援依頼に対して、病弱教育支援センター職員とコア・ティーチャーや当校の職員で連携して対応した。</li> <li>・当校の外部支援を広く広報するため、特別支援教育コーディネーターの会議等での広報や関係機関への訪問を行った。</li> <li>・外部支援の状況をセンター会及び報告書により随時担当者間で共有し、組織として外部からの相談に対応した。</li> <li>・小中学校及び高等学校、特別支援学校等の教員や関係機関職員を対象とした夏季公開職員研修会を通して、病弱教育の専門性向上のための支援を実施した。</li> <li>・特別支援学校病弱教育担当者の困り感を把握しそれらを解決するための病弱教育担当者会を実施した。圏域を広げて東濃地区・飛騨地区の学校にも案内し新たな参加もあった。</li> <li>・特別支援学校病弱教育担当者会では ICT 機器を活用した実践紹介（3校）を行い、参加校同士で活発な情報交換をすることができた。また、全病連の報告を行い、病弱教育の動向についての情報提供をすることができた。</li> <li>・「幼児相談室」では、保護者への情報提供（就学までの流れ等）や対象児への模擬授業等、継続した支援をすることができた。また、他分掌と連携して相談支援を進めることができた。</li> </ul>
<p>今年度の具体的なかつ明確な重点目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1)小・中学校及び高等学校の教員に対して病弱教育の支援を実施する。</li> <li>(2)特別支援学校病弱教育担当者のニーズに応える支援を積極的に実施する。</li> <li>(3)対象未就学児の保護者支援を関係機関と連携し積極的に行う。</li> </ol>
<p>重点目標を達成するための校内組織体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部や各分掌等と協力のもと、計画的に関係機関を訪問し連携を進め、外部支援を行う。</li> <li>・外部支援の状況を管理職、病弱教育支援センター職員、コア・ティーチャー、関係分掌職員等で共有し、迅速かつ丁寧に支援にあたるようにする。</li> </ul>
<p>目標の達成に必要な具体的取組</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1)小・中学校及び高等学校の教員に対して病弱教育の支援を実施する。             <ol style="list-style-type: none"> <li>①小・中学校や高等学校及び地域で、病弱の児童生徒への療育手帳に関わる機関等を訪問し、広報活動を実施する。外部支援として行っている相談活動や公開、職員研修会、遠隔教育について広報する。広報活動に使用するパンフレットの更新を検討する。</li> <li>②相談支援（電話相談・訪問支援）では、病弱教育支援センター職員及びコア・ティーチャーをはじめ全校体制で支援を実施する。</li> <li>③病弱の特別支援学級をもつ8校へ積極的に訪問し、連携する。</li> <li>④外部支援の状況を記録の回覧や会議での報告を通して担当者間で共有し、外部からの問い合わせ等には迅速に対応する。</li> <li>⑤圏域外の病弱教育に関する相談や異なる障がい種の相談に対しても、各特別支援学校の支援センターと協力し、丁寧に対応する。</li> </ol> </li> <li>(2)特別支援学校病弱教育担当者のニーズに応える支援を積極的に実施する。             <ol style="list-style-type: none"> <li>①特別支援学校病弱教育担当者の専門性向上への支援を、病弱教育担当者会や訪問支援等の取組を通して実施する。</li> <li>②病弱教育担当者会では、参加校からのアンケートを参考にしてテーマを設定し、情報交換・意見交流が活発になされるような運営を工夫する。Web 会議を利用した参加も検討する。</li> </ol> </li> <li>(3)対象未就学児の保護者支援を関係機関と連携し積極的に行う。             <ol style="list-style-type: none"> <li>①連携する関係機関を増やすとともに、それらを直接訪問し「幼児相談室」の活動内容や趣旨についてパンフレット等を利用し丁寧に説明する。</li> </ol> </li> </ol>
<p>達成度の判断・判定基準あるいは指標</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1)小・中学校及び高等学校の教職員に対する病弱教育の支援ができたか。</li> <li>(2)特別支援学校病弱教育担当者の専門性向上への支援ができたか。</li> <li>(3)未就学児の保護者への支援を関係機関と連携して行うことができたか。</li> </ol>
<p>取組状況・実践内容等</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1)・小中学校及び高等学校、特別支援学校からの電話やメールでの相談に対してセンター職員やコア・ティーチャー等で連携して対応した。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校からの依頼を受けて長期入院の高等学校生徒の遠隔教育に関わる支援会議や復学支援会議に出席した。</li> <li>・外部支援の状況をセンター会及び報告書により随時担当者間で共有し、組織として外部からの相談に対応した。</li> </ul> </li> <li>(2)・研究研修部と連携し、夏季公開職員研修会（オンライン配信）の周知や申込のとりまとめを行った。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・病弱を対象としている県内の特別支援学校に、休校期間中に準ずる教育課程に在籍する病弱児童生徒に対して実施したオンライン学習支援等についてのアンケート調査を行い、結果を各校へ情報提供した（回答数：11校）。</li> <li>・病弱教育担当者会での情報交換を希望した4校を対象としてオンライン会議を実施した。</li> <li>・コア・ティーチャーと連携して、病弱を対象としている県内の特別支援学校に、外部専門家に</li> </ul> </li> </ol>

	<p>よる超重症児・重症心身障がい児への支援についての学習会をオンライン配信にて実施（4回）した。</p> <p>(3)・来年度の就学・入学を検討している幼児児童生徒・保護者・関係機関職員を対象とした学校見学を実施した。</p>
<p>評価の視点</p>	<p>評価</p>
<p>(1)小・中学校及び高等学校の教職員に対する病弱教育の支援ができたか。</p> <p>(2)特別支援学校病弱教育担当者の専門性向上への支援ができたか。</p> <p>(3)未就学児の保護者への支援を関係機関と連携して行うことができたか。</p>	<p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>A (B) C D</p>
<p>成果・課題</p>	<p>総合評価</p>
<p>(1)○電話・メール相談では、センター職員やコア・ティーチャー、分掌担当者の専門性を活用して支援することができた。広報活動用のパンフレットの更新をすることができた。</p> <p>○訪問支援として長期入院の高等学校生徒の遠隔教育に関わる支援会議や復学支援会議に出席し、高等学校、病院、特別支援教育課と共に支援することができた。</p> <p>○夏季公開職員研修会をオンライン配信で実施することで、小・中学校、高等学校、療育機関等から多くの参加があり、専門性向上の支援ができた。</p> <p>▲感染症対策のため訪問しての広報活動は控えざるをえない状況にある。郵送や電話等での効果的な広報の方法を検討する。</p> <p>▲来年度の公開研修会はオンライン配信で実施するものが増えると予想されるため、研修を実施する分掌と連携して業務を分担する。</p> <p>(2)○特別支援学校病弱教育担当者会は、アンケート調査やオンラインでの情報交換会を実施し、それぞれの学校の担当者への情報提供をすることができた。</p> <p>○情報交換会をオンラインで実施することで、遠方の学校からの参加や1校あたり複数名での参加があり、話題を共有し病弱児童生徒の支援について考えることができた。</p> <p>○超重症児や重症心身障がい児への支援についてオンライン学習会を実施することで、専門性向上のための支援ができた。</p> <p>▲特別支援学校病弱教育担当者のニーズを把握し、専門性向上の支援を継続する。</p> <p>(3)○学校見学で当校の概要説明をする際にオンライン中継を行い、具体的に授業の様子を見学者に伝えることができた。</p> <p>○関係機関と連携して保護者の思いを把握し必要に応じて部主事や教務部と情報共有することで、保護者のニーズに沿った就学先の情報提供をすることができた。</p> <p>▲外部関係機関と連携して対象となる幼児の保護者への支援を行うとともに、校内の他分掌や各部とも連携していくことを継続する。</p>	<p>A (B) C D</p>
<p>来年度に向けての改善方策案</p>	<p>・小・中学校、高等学校、関係機関等に対して、郵送や電話での広報を行う。従来の電話・メール相談、訪問支援に加えてオンラインでの相談も行う。</p> <p>・特別支援学校病弱教育担当者の専門性向上のため、オンラインでの情報交換会や研修会を実施する。</p> <p>・関係機関と連携して重症心身障がい児の保護者に対しての支援を行う。</p>